

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）中間評価結果表

大 学 名	立命館大学
整理番号	7
事 業 名	国際PBLによるイノベータ育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;"> 本事業は、AIMS 参加大学との間で学士課程での連携を進展させ、ASEAN 諸国政府の政策課題・社会問題について共同で解決することで、思考ミックスの能力を備えた学生を育成することを目的とした国際PBLの教育プログラムである。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 実施に当たっては、新たに採用した助教や現地コーディネーターなど必要な人員を配置し、これまでに構築してきた交流実績及びPBLを活用した教育プログラムの経験を土台として、おおむね計画どおりに進捗している。また、オンデマンド講義・サテライト講義についての準備や調整も着実に進められている。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 事業の広報のため、4カ国語（日本語、英語、タイ語、インドネシア語）でウェブページが構築されている点や、自己点検評価報告書がホームページ上で公開されている点など、積極的な情報公開は優れた取組として今後も継続されることが望まれる。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 本事業の柱となるPBLアプローチを取り入れた教育プログラムについては、留学中はもとより、留学前後を含め3セメスターに亘り学部教育の中に組み込まれている点に独自性が認められるものの、PBL科目の内容や成績評価基準などにおいて、具体性に欠ける面も見受けられるため、今後の課題として重点的に取組を強化する必要がある。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 学生の受入については、タマサート大学からの要請に応じて平成26年度に計画を前倒しして行われ、事前準備や受入後の支援など適切なサポートのもと順調に交流が開始されている。派遣については、事前教育として派遣国の文化理解を促進するため、語学に加え、東南アジアの宗教、グローバル教育の科目を実施するなど工夫は見受けられるものの、派遣学生数は数値目標を下回っていることから、早期の目標達成に向けたより一層の努力が必要である。 </p>	